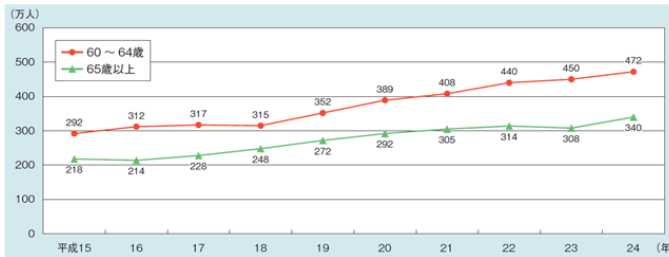
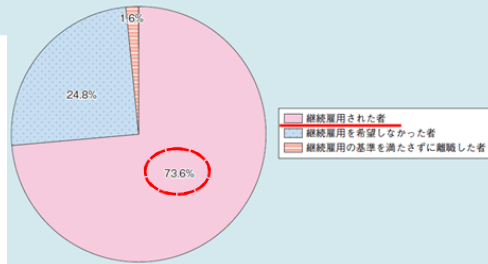


- 高齢者の雇用者数は増加傾向
- 過去1年間の定年到達者(平成24年6月1日時点)のうち、約4分の3は継続雇用



資料：総務省「労働力調査」
※平成23年は、岩手県、宮城県及び福島県を除く44都道府県の集計結果

(上)【図1-2-19】雇用者数の推移(全産業)



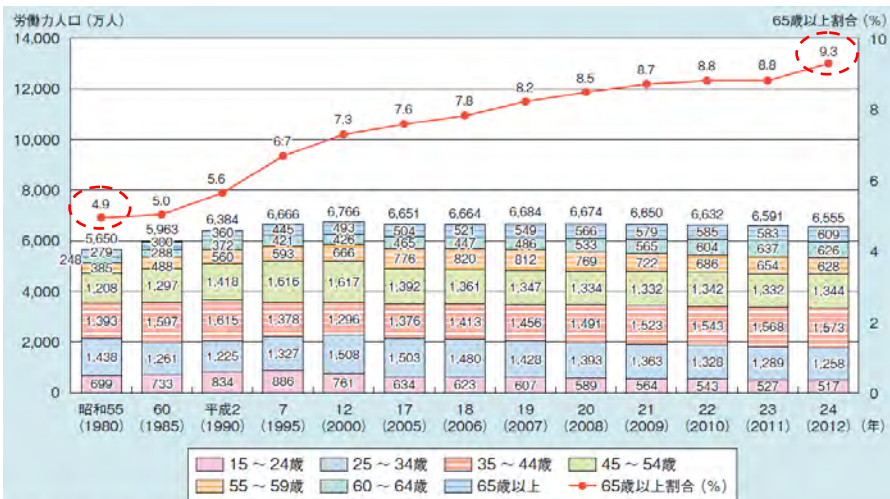
(右)【図1-2-20】定年到達者の状況

資料：厚生労働省「平成24年「高齢者の雇用状況」集計結果」
※常用労働者数31人以上規模企業を集計

次は、資料の 23 頁でございます。これは、労働力人口の推移でございます、これを見ていただきますと、労働力人口に占める 65 歳以上の人比率は大きく上昇しておりまして、昭和 55 (1980) 年に 4.9% であったものが、平成 24 (2012) 年には 9.3% になっております。

- 労働力人口総数に占める65歳以上の人の比率は大きく上昇

【図1-2-22】労働力人口の推移



資料：総務省「労働力調査」(年齢階級(5歳階級)別労働力人口及び労働力人口比率)より内閣府作成
(注)「労働力人口」とは、15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせたものをいう。

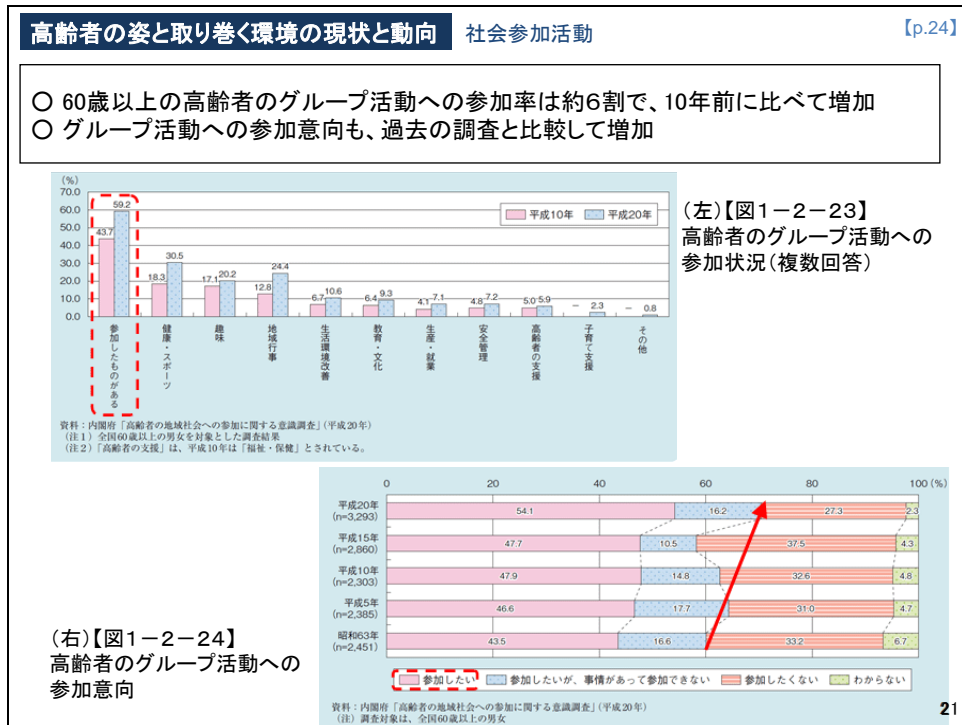
<社会参加活動>

次は、資料の 24 頁でございます。これは、社会参加活動についてのデータでございます。

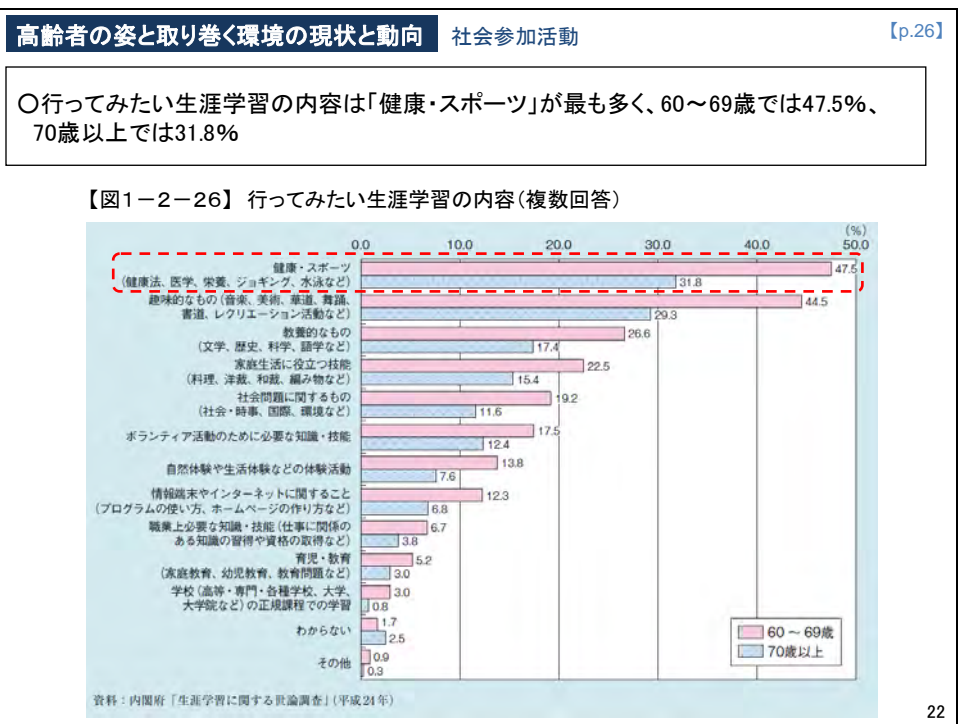
60 歳以上の高齢者のグループ活動への参加率は、約 6 割でございます。各棒グラフの左側が平成 10

(1998)年のもので、右側の棒グラフが平成20(2008)年のものです。見ていただくと、10年前に比べて増加していることが分かるかと思えます。

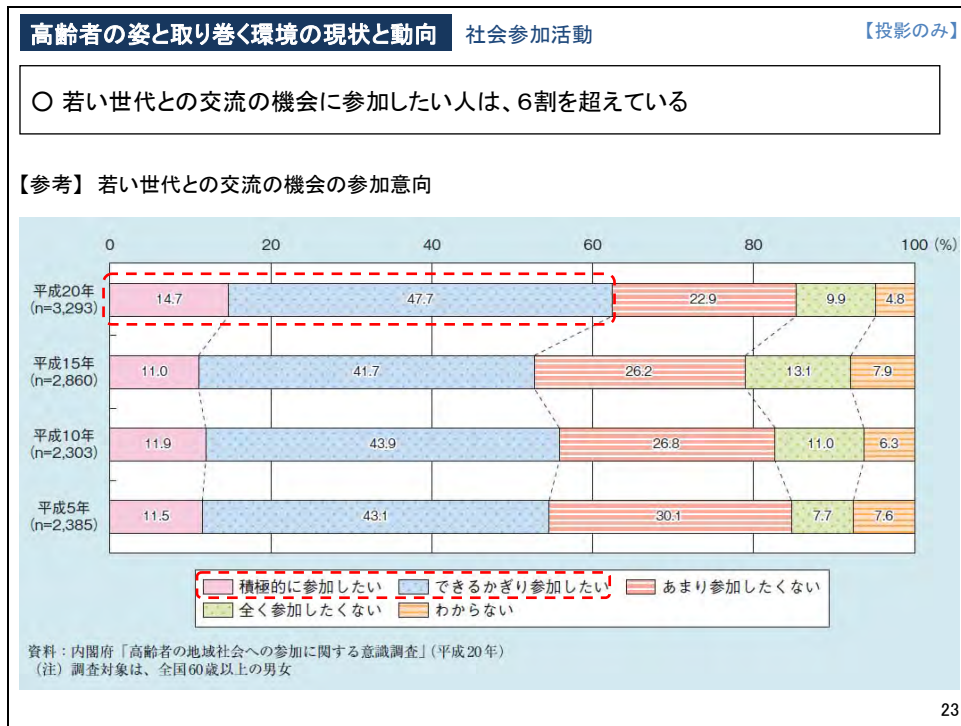
それから、右下の帯グラフは参加意向でございますが、参加意向も過去のものに比べて増加していることが分かるかと思えます。



次は、資料26頁でございます。これは行ってみたい生涯学習の内容について示したものでございます。各棒グラフの上が60～69歳の方のご回答でございます。下が70歳以上のものでございます。行ってみたい生涯学習の内容としましては「健康・スポーツ」が最も多くなっております。



次は、お手元の資料にはないのですが、若い世代との交流の機会の参加意向を聞いたものでございます。点線で囲っておりますのが、平成 20（2008）年調査の回答結果でございます。積極的に参加したい方、できるかぎり参加したい方を合わせますと、6 割を超えている状況でございます。



<生活環境>

それから、資料の 29 頁でございます。生活環境についてのものでございます。

これは、どれくらい近所づきあいをされているかということについて聞いております。一番左側が全体のものでございまして、近所づきあいの程度としては、「親しくつきあっている」が点線で囲っている部分で 51%でございます。ところが、その右側、これは男性の一人暮らし世帯についての回答でございますが、「つきあいはほとんどない」という方が、点線で囲んでいる部分で 17.4%いらっしゃいます。一方で、真ん中あたりにあります点線で囲っている部分、これは女性の一人暮らし世帯の方の回答でございますが、「親しくつきあっている」という方が約 6 割でございます。ということは、男性と女性でかなり違うということが読み取れると思います。